

2022年3月13日（日）主日朝礼拝説教

『これで商売をしなさい』井上隆晶牧師

Ⅱペトロ3章9～15節、ルカ19章11～27節

①【キリストの再臨に備えて、商売をするのがこの世である】

昔のイスラエルはローマ帝国に支配されていましたから、人々はメシアによってローマから解放され、昔のような強い国家が再建されることを夢見ていました。人々はイエス様に期待し、神の国はすぐにでも地上に現れるものと思っていました。そこでイエス様は一つのたとえを話されました。

ある立派な家柄の人が王位を受けるために遠い国に旅立つことになりました。そこで彼は10人の僕を呼んで十ムナの金を渡し「わたしが帰って来るまでこれで商売をしなさい」（ルカ19：13）と命じました。しかしこの10人の僕とは違って、国民は彼が王になるのを望んでいませんでした。ここまでの、王位を受けるために遠い国（天の国）に旅立つ人はイエス様であり、10人の僕というのは、彼を王として認めていますからキリスト教徒を意味しており、国民とはここではユダヤ人を意味していることが分かります。ですからこの譬えはキリスト教徒に言われているのです。神の国が来るのはまだまだ先なので、私たちは王であるキリストが帰って来る時まで商売をして、待つように言われているのです。

●榎本保郎牧師の本の中にこんなことが書かれていました。

「信仰の世界は平面の世界とは違う。平面の世界は、私たちが朝早く起きて一生懸命努力すればこうなるというような世界だが、信仰の世界は天から神が御心を注がれてくるのだから立体の世界である。…聖書は宣言の書であると私はよく言うのだが、それは受け止めていくよりほかに仕方がないということである。…神は愛であると言われたら、神は愛であることを信じてゆくのであり、神が世を裁かれると言われたらそれを信じていかなければならない。」

つまりこの世界というのは本当は立体の世界なのですが、人間は平面の世界だと思っているのです。神が支配している世界ではなく、人間だけの世界だと思って生きているということです。上からの神の裁きや支配というものを計算に入れないで人間の計算だけで生きているということです。しかし神は時を定めて必ずこの地に降り裁きを行います。エレミヤは預言者として立てられる時、枯れたアーモンドの木の幻を見ました。この木は「目覚めの木」という意味があるそうで、冬枯れの中でポツンと花を咲かせるからです。枯れている（死んでいる）のではなく、神は生きておられるということを教えようとしたのです。神はおられないかのように見えます。しかし「神は生きておられる」のです。人が眠っている時に、花が芽を出すように、突然現れるのです。その神を恐れ、生きている神を目の前において生きるのがキリスト教徒の生活なのです。

②【ムナとは何か？】

「ムナ」というのはギリシャの銀貨で、1 ムナは 100 日分の賃金に当たり、今のお金でしたら 90 万～100 万円くらいだと言われています。タラントンの譬えの時は、5 タラントン、2 タラントン、1 タラントンと「力に応じて」（マタイ 25 : 15）預ける額が違いましたが、ここではすべての信者に同じように一ムナずつを与えています。地上の物には違いがありますが、天上のもの、神的なものはみな同質であって、多い少ないはありません。変化、増減は被造物の特徴です。より大きな祝福、小さな祝福などありません。赦しもそうです、大きな赦し、小さな赦しなどなく、すべてが帳消しにされます。ですからこの「ムナ」は神のもの、神から出たものを意味しています。それは天の信仰、聖霊、永遠の命、を意味しています。しかしそれが人間の中に入る時に、たくさん入る人と、少ししか入らない人に分かります。聖霊について 4 世紀の聖大バシレイオスは「聖霊はその力によって万物を満たしているが、ふさわしい者だけがそれに与ることができるのである。しかも、聖霊は同じ程度でご自分を分かち与えるのではなく、信仰の度合いに応じてその活力を分かち与えるのである。」と述べています。

●先日ある人から「先生は、毎日祈禱をして偉いですね」といわれたのでこう答えました。「集中してできたのは最初の初日くらいですよ。カラカラに乾いた脱脂綿に水が吸い込まれるように、神の言葉や祈りの中に身を浸すと、すーっと天のものが入ってきて、ああ自分は何と神から離れていたのかということが分かりました。でも二～三日したら疲れて集中できないし、朗読していても入ってこないのです。一人で祈っていたら必ず寝てしまいます。神の恵みってなかなか人の中には入らないのです。恵みが豊かであればいいわけではありません。人は恵みを受け取る力が弱いのです。多くを手から落とし、耳から落として無駄にしています。」

③【愚かな僕の問題点】

彼はやがて王位を受けて帰って来ます。これは世の終わりにキリストが再臨することを意味しており、彼は自分の僕たちを呼んで報告を聞きます。再臨の時、私たちはキリストの前に立ち、この世でどのように生きたかを報告しなければなりません。最初の者が「ご主人様、あなたの一ムナで十ムナもうけました」と報告すると、王である主人は「良い僕だ。よくやった。お前はごく小さな事に忠実だったから、十の町の支配権を授けよう」といいました。二番目の者が来て「ご主人様、あなたの一ムナで五ムナ稼ぎました」と報告すると、王である主人は「お前は五つの町を治めよ」といいました。この町を治めるという言葉ですが「あなたがたは、私の国で…王座に座ってイスラエルの 12 部族を治めることになる。」（ルカ 22 : 30）と主が言われた言葉を思い出します。さて他の者が来て「ご主人様、これがあなたのムナです。布に包んでしまっておきました。あなたは預けないものも取り立て、蒔かないものも刈り取られる厳しい方なので、恐ろしかったのです。」（21 節）というので、主人は「悪い僕だ。その言葉のゆえにお前を裁こう。私

が預けなかったものも取り立て、蒔かなかったものも刈り取る厳しい人間だと知っていたのか。ではなぜ、私の金を銀行に預けなかったのか。そうしておけば、帰ってきたとき、利息付きでそれを受け取れたのに。」(22～23 節) と言い、彼の持っている一ムナを取り上げ、十ムナ持っている者に与えてしまいました。

この愚かな僕の問題点はどこにあるでしょう。彼は神からいただいた信仰、聖霊、永遠の命を喜んでいません。何か迷惑のように感じます。彼は神を厳しい方だと思っています。これは律法の考え方です。彼はキリスト教徒でありながら「律法主義的」であり喜びがありません。天からの信仰は、天の方をより深く知るための資本金です。同じものによってでなければ同じものを知ることはできないからです。その信仰や聖霊が働けば、キリストを愛するようになり、喜びは満ちるはずなのです。私たちの商売は、キリストに対する信仰と愛と喜びを増やすことにあります。来世ではあなたの信仰に倣って、神はあなたに報いられます。つまりあなたの将来はあなたが自分で決めるということなのです。「銀行に預けなかったのか」とありますが、銀行とは教会の事です。教会にあなたを預け、礼拝や信仰生活に自分の身を置けば、あなたの信仰と喜びは確実に増えたことでしょう。

●今回の戦争でウクライナの民間人が次々と亡くなっています。ロシアが無差別攻撃をしているからです。避難していた母親と二人の子どもが砲撃で亡くなり、道端に倒れている写真を見ました。その写真がワシントンポスト社の新聞に載り、それを見て父親は家族の死を知ったそうです。悲惨です。戦争は仕事も家族も家もすべてを一瞬で奪います。この世とはそういうものだと思います。平凡な幸せを奪っていくのです。私は信仰が与えられたことを本当に良かったとつくづく思います。誰でも信じられるわけではないのです。信仰には来世での希望があります。「楽しいことは何もない」という人がいますが、悲しいことです。

④【地上の物を使って、天のものを獲得しなさい】

●サーロフの聖セラフィーム（18世紀）はこのように語ります。

「み言葉である神、私たちの主、神人イエス・キリストは私たちの一生を市場にたとえています。地上での私たちの生活を彼は商いと呼んでいます。彼はすべての者たちに「私がやってきて時代を救うまで商いをしなさい。というのも日々は悪なのですから」と言われます。つまり地上のものを手段として天上の善を獲得するため、時を用いなさい。…キリストのためにあなたに最高のものを返してくれるものと取り引きしなさい。神の恵みという資本を集め、それを神の永遠の銀行に収めなさい。」

私たちの信仰というのは天を目指すものでなければなりません。地上で何かを獲得することを目指してはいけません。天の朽ちないものを手に入れる信仰であって、地上の朽ちるものを集めるような信仰をしてはなりません。いくら大きな立派な聖堂を建てても、それはキリストの命を得るための道具に過ぎません。地上の物には命はありません。最後に残るものは、天のものだけです。「朽ちる食べ物のためではなく、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。」(ヨハネ 6 : 27)

と主はいわれ「天に宝を積みなさい」とも言われました。地上のいっさいの物は
この世に置いていかななくてはなりません。「肉と血は神の国を受け継ぐことはでき
ず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはできません。」（Iコリント 15：
50）朽ちないものとは神的なものです。それしか来世に持って行けません。
ロシアは地上のキエフを手に入れるかもしれませんが、それでも負けます。もう
既に負けています。彼らは罪に負けたのです。神を畏れず、してはならない悪を
行いました。そこには命はありません。地上の物を手に入れても、天の命を失い
ました。神に従う者のみ、天の命を得ることが出来ます。だから戦争があっても、
災害があっても恐れてはなりません。それらは私たちから神の命を決して奪うこ
とが出来ません。私たちの命とはキリストなのです。宝とはキリストなのです。
キリストを知るために時間を用い、生命を用い、体の能力や感覚を用いましょう。
キリストに対する絶対的な信頼と愛を手に入れなさい。それさえあれば怖くあり
ません。あなたの中でこの世の物がますます小さくなり、キリストが大きくなり
ますように。来世で私たちの中からキリストに対する感謝と愛の言葉と大いなる
喜びが湧き出てきますように祈ります。